

12.07.21～23 常念山脈縦走報告書

M2 荒川 晶

①メンバー

M2 荒川(単独)

②コースタイム

7/21(土)涸沢診療所 08:10～09:50 横尾 10:10～12:50 蝶ヶ岳分岐点 12:55～13:30 蝶ヶ岳ヒュッテ(幕営)

7/22(日)蝶ヶ岳ヒュッテ 05:30～蝶ヶ槍 06:05～09:30 常念岳 10:00～11:15 常念山荘 13:50～16:30 大天荘(幕営)

7/23(月)大天荘 06:30～09:10 燕山荘 09:35～09:55 燕岳 10:00～10:20 燕山荘 11:00～13:05 中房温泉

③総評

今回の山行は、初日、二日目ともあまり天気恵まれなかった。登山道、また自身のコンディションもあまりよくなく、苦しいものとなったが、その分雨天時、またガスで視界が悪い時の行動や服装、装備品の使い方などについて学ばされることも多く、得るところの多い山行となった。最終日は好天に恵まれ、大天井岳からの眺望を楽しめ、また雨で濡れた衣類やテントを僅かながら乾かすことが出来たのは、せめてもの幸いといったところだろうか。あと下山後の温泉はあるに越したことはない。

④1 日目(7/21)

この日は行程を蝶ヶ岳までと決めていたので、診療所で朝食をゆっくりと済ませて出発。テント泊の単独行はそういえば初めてだったので、荷物の重さや大きさを改めて実感しながら、小雨の降る中ヒュッテを出発。横尾までの通いなれた道を下りて、少々休憩。ここで雨がやんだので天候の回復を期待しつつ、蝶ヶ岳への登りへ入る。

横尾から蝶ヶ岳への登りは樹林帯の中をただ一途に登り続ける道で、途中



中槍見台と呼ばれる、天気良ければ眺望の良さそうな場所のほかは、同じような景色が続く。(上写真)

途中再び雨が降ってきたので再度雨具を装着し、休憩を何度か繰り返しながら 2 時間半ほどかけてようやく稜線に出る。樹林帯を抜けた爽快感はあったが、晴ればここで穂高～槍の眺望が一気に広がり、どれだけ気分の良いことかと思うと少し悔しい。

縦走路との分岐点で少々休息を取ったのちに、残りわずかとなった蝶ヶ岳への道を歩む。(右写真)

稜線の道はなだらかで、穂高とは違った優しさのようなものを感じる道であった。

ふとみやると、足元でピーピー鳴くひよこの様な生き物がいる。何かと思って眺めるとライチョウの親子で、メスを先頭に何と7匹のヒナが連れだって歩いているのに遭遇した。かわいいので、しばし見とれて写真を撮る。(右写真・下写真)

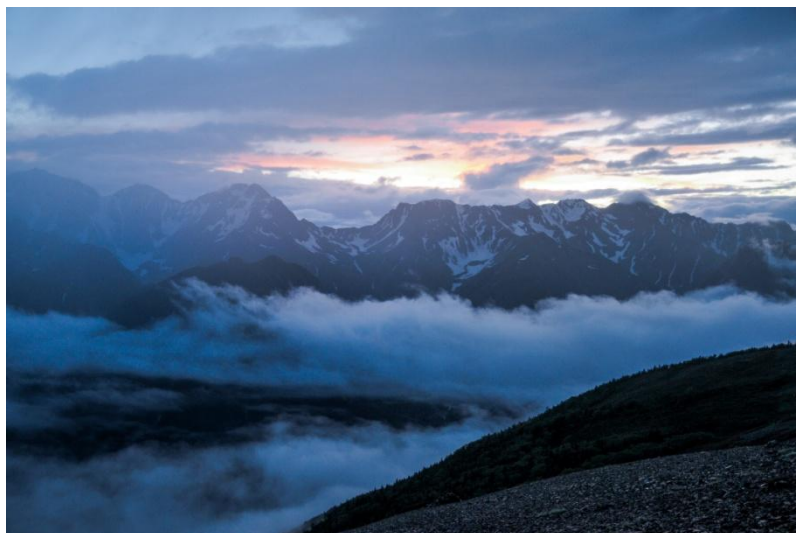


その後少々で蝶ヶ岳ヒュッテに到着。幕営する。

ここでは 15 日に名古屋市立大蝶ヶ岳診療所の三浦裕先生にお会いした際に、訪れることを連絡させていただいていたので、学生や Dr.と診療所の運営の話や患者の数など、運営形態についての色々な話を聞き、夕方から夜に至るまで、大変有意義に

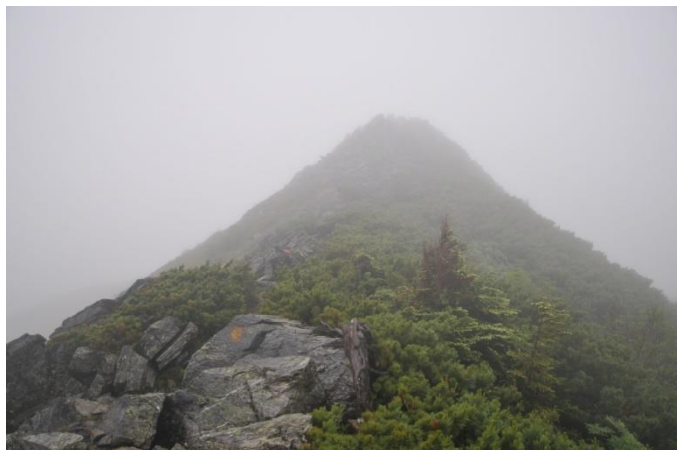
時間を過ごすことが出来た。涸沢からは多少距離はあるものの、下山時等に訪れることが不可能ではないので、今後とも機会があればぜひ交流を深めていきたいところである。

なお、夕食後 19:00 前後には、一瞬だが雲が晴れ、穂高～槍の稜線を一望にすることが出来た。幸運に感謝！(右写真)



⑤2 日目(7/22)

この日は蝶ヶ岳から大天井岳までの長距離の縦走。テント撤収後、診療所の方々に挨拶に伺い、5 時 30 分ごろ出発。30 分ほどで蝶槍(右写真)を通過し、再び樹林帯の中を行く(下写真)。この日も天気には恵まれず、濃いガスがかかる中を歩くことになる。湿度が高いのでカメラのレンズが結露して、水分を拭うのにずいぶん苦労させられた。



蝶槍を抜けて 1 時間少々歩くと、樹林帯が途絶え、花崗岩が露出したエリアに出る。このあたりから常念山荘方面から来たと思われるパーティーと遭遇するようになる。しかも、この辺りから再び雨に降られ始め、再び雨具を着用することになる。こういう場面では雨風を凌ぐ点では雨具は大いに有用ではあるのだが、行動中の汗で体が蒸れ、服が濡れてしまうことには変わりがないのだな、と改めて実感させられた。



はっきりと常念岳の山域に入ったのだな、と思いつつ、花崗岩の岩稜帯を歩く。途中登山道がピークを巻いている個所で誤ってピークを踏んでしまったりして、少々体力をロスしてしまったのは反省である。

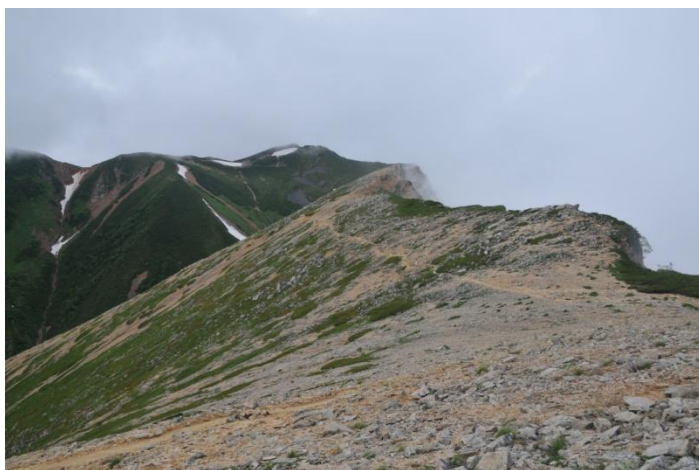
思いのほかきつい登りに難渋しながらも、9 時 30 分頃に、ようやく常念岳の山頂を踏む。(下写真)



ここで天候の回復を待ったが、運の悪いことにやや強い雨が降り出し、すぐに出発すればよいものをそれでも 30 分近く粘ってしまったので、体が冷え切ってしまいバテバテの状態です。危うく下りる尾根を間違えかけたのは反省である。

45 分のコースタイムのところを 1 時間以上かけて、途中何度か転びかけるもなんとか怪我なく常念山荘に辿りつく。

あまりに疲れていたなので今日はここで行動を終了し、明日頑張って中房温泉まで歩くか、あるいは一の沢へ下山するかとも考えたのだが、現時点では結論を出すのを保留することにした。とりあえず、せっかく訪れたので、常念山荘でカレーライスを食べ、寺脇幹先生のお父様が設立にも関わられた、信州大学の常念診療所(右写真)にも立ち寄ることにする。ここでも温かくもてなして頂き、疲れた体には随分有り難く感じられた。運よく患者さんの診療風景も見学させていただき、昼食(!?)も頂いてしまい、有意義な時間を過ごすことが出来た。改めて感謝の意を捧げたい。



そして 13:50、やや遅くなってしまったが天候が回復気味だったもあり、また体調も大分良く感じられたので当初の予定通り大天荘まで歩くことにする。横通岳まで一気に登り返し、その後はなだらかな稜線に沿って縦走する。(右写真)

花崗岩のガレた登山道をしばらく歩くが、東天井岳付近に差し掛かるあたりで、這い松帯へと入り、景観が一変する。

このあたりから再びガスに巻かれ、視界が利かない中を歩いていたのだが、ふと前方に人でない何かの息遣いを感じて立ち止まる。

…ツキノワグマ??(右写真矢印付近)

ガスっていたこともあり、彼の正体は何だったのか、写真も撮ってみたものの(右写真中央?)結局良くわからなかったのだが、少し離れた位置で手を叩いたりしてこちらの存在を知らせていると、10分ほど彼は姿を消したので、少しヒヤヒヤしながらもそのまま歩みを進めることにした。

この日はツキノワグマの目撃情報が午前中にあったらしい。彼が何の動物だったにせよ、鉢合わせする前に気がついたのは幸いであったのだが、常念山荘でゆっくりしてしまい、遅い時間に歩くことになってしまったことを反省した。

その後は手を叩いたり、手近にあった看板の如く、「廃道通行止」と時々叫んだりしながら(怪しい)、大天荘をめざし歩く。ガスに巻かれて付近の山容が殆ど分からないので、登山道を誤らないように注意しながら歩き、16:30 大天荘着。長い1日となった。ちなみにこの日も大天荘到着前に、ライチョウのオスに出会うことが出来た。

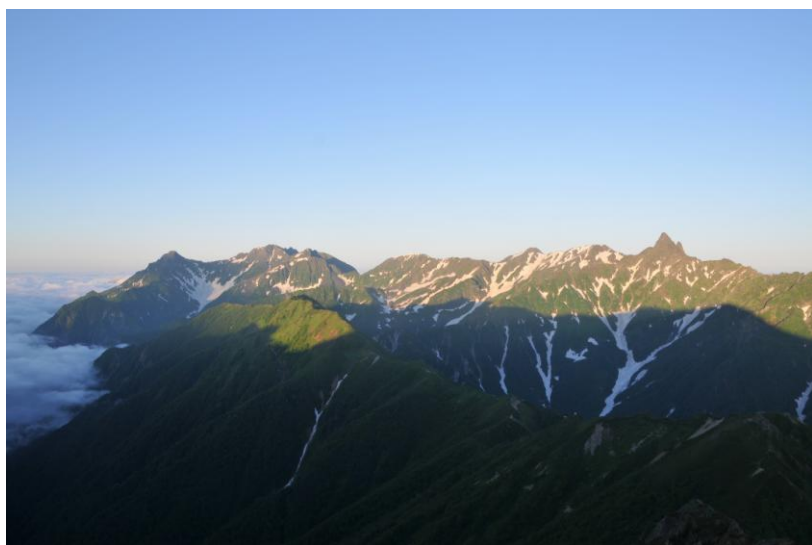
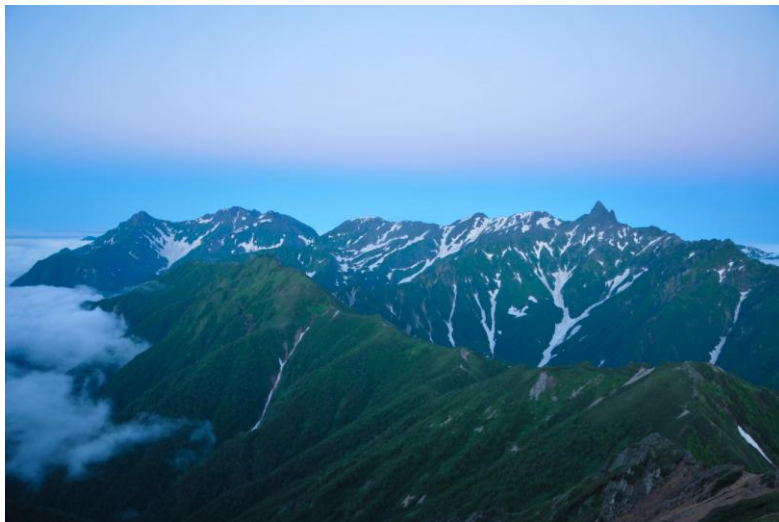


⑥3 日目(7/23)

この日は予報では晴れ予報、天候が回復傾向に向かうのかと思いきや、大天荘ではテント設営中に本降りの雨に降られ、持ってきた衣類が殆ど濡れてしまう事態に。夏場とはいえ夜は 10℃近くまで冷え込むので、下着でシュラフに籠り、持ってきたロールペーパー等と体温で衣類を乾かしながら時間を過ごす。それでも相当寒さは身に堪え、安眠とは程遠い環境で一夜を過ごすことになってしまった。どうもズボンの防水が剥がれてきているのが原因のようで、装備品に関しても今一度の反省を加えたいところである。

深夜まで雨に降られたり、止んでもガスっていたので結局 3 日間ともガスの中を歩くだけか…と半ば自嘲気味に過ごしていたのだが、4 時前に起きるとどうやら星が出ている。雲もない。これは！と思い、急いで朝食を掻き込み、大天井岳の山頂を目指す。

右写真：大天井岳よりブルーモーメントの穂高～槍の稜線。1 日のうちでこの時間帯が一番美しいのです。

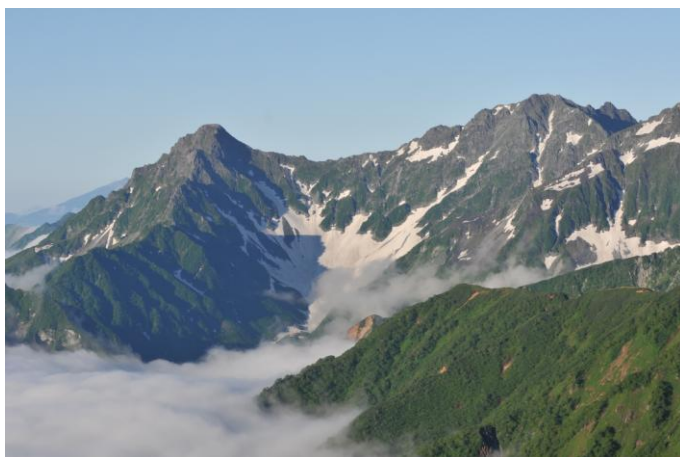


左写真：そして御来光。この時間帯は雲も少なく、北アルプスの山々や、遙か遠くには立山・剣岳まで見渡すことが出来た。

2 日間雨に降り込められただけにこうして御来光を迎えられた感慨はひとしお。周囲の人に怪しまれるぐらいに写真を撮りまくり、再び大天荘へと引き返す。

右写真：大天荘より涸沢カールを遠望。非常に小さいが、涸沢ヒュッテも確認できた。この日はモルケンロートは見えただしょうか？

2 日間の雨ですっかり濡れてしまった備品を乾かししたりしながら支度を整え、06:50 頃に出発。稲葉先生謹製の涸沢診療所ジャケットを着ていて、すれ違った人に「診療所の方ですか？」と聞かれるので、涸沢診療所の紹介をしたりし



ながら、燕山荘までの縦走を楽しむ。

稜線からは水晶岳、三俣蓮華岳などを眺めながら(右写真)なだらかな道を歩く。流石に表銀座と呼ばれるだけのことがあり、昨日までに比べても登山客の姿が圧倒的に多いのが分かる。大下りを越えると、少しずつ山容が変わり、大きな花崗岩が林立する中を歩くようになる。(下写真)砂の間から姿を見せるコマクサの姿が奇麗である。



少しガスが多く、眺望があまり利かないのが残念ではあったが、それでも好天に恵まれてのんびりと過ごすことが出来た。

再び花崗岩の美しい稜線を歩いて往復したのは(下写真)、燕山荘に併設されている順天堂大学の診療所を訪問。時間の都合もあり、小一時間ほどお邪魔して、いよいよ下山の途に就く。



てここが人気区間なのだな、と実感させられた。

そして樹林帯へと入り、13 時過ぎに無事に中房温泉に下山。温泉に入り、バスと電車を乗り継いで自宅へと帰宅した。



少しずつ雲が増えてきて、時折ガスが辺りを覆うようになった中を歩き、09:00 過ぎに燕山荘に到着。この付近でもライチョウにであう。

少々休憩を入れて、荷物を置いて空身で燕岳を往復する。(下写真)



ここからの合戦尾根は 1000m を超える直登区間。ランドマークとして合戦小屋や、ベンチなどが数カ所併設されており、自分が大体今どのあたりにいるのか分かるようになっている。

燕山荘の登山者への思いやりが感じられ、また改め

